

霧島市 若者の少子化等に対する意識調査

【調査結果報告書 概要版】

令和6年8月

若者の少子化等に対する意識調査結果

調査時期	令和6年7月
調査対象者	市内在住の15～29歳かつ子どもがいない方 (中学生を除く)
調査方法	郵送による配布、インターネット回答
配布数	2,000件
有効回収数（有効回答率）	401件（20.0%）

調査結果の総括

◆就労について

仕事を選ぶ際に、重要と思うことは、「収入が多いこと」が49.4%と最も高く、次いで、「自分のやりたいことができること」が44.1%、「安定して長く続けられること」が43.4%となっています。

◇居住継続意向別にみると、最も高い項目に違いがあります。

「住み続けたい」 : 「安定して長く続けられること」
⇒ 地元中小零細企業の多様で活力のある成長・発展への支援
⇒ 市内企業や地元就職の魅力を発信する取組の推進 等

「住み続けたくない」 : 「自分のやりたいことができること」
⇒ 若者が魅力を感じる仕事の創出 等

調査結果の総括

◆結婚について

現在独身でいる理由は、「結婚するにはまだ若すぎるから」が29.8%と最も高く、次いで「異性と知り合う機会がないから」が27.3%、「今は、仕事（または学業）に打ち込みたいから」が24.8%となっています。

◇多様な価値観を尊重した上で、若者の主体的な選択による希望に応じて社会全体で支援することが必要

「異性と知り合う機会がないから」 ⇒ 出会いの機会・場の創出支援の広域展開、官民連携、伴走型 等

「結婚資金が足りないから」 ⇒ 結婚に伴う新生活のスタートアップへの支援 等

調査結果の総括

◆働き方、子育てについて

結婚して子どもができた後の希望する働き方は、「夫婦ともに働き続ける」が58.3%と最も高くなっています。

子どもが欲しくない理由は、「子育てや教育にお金がかかるから」が52.0%と最も高くなっています。

男性が女性とともに積極的に子育てをしていくために必要なことは、「家事や育児は女性の役割だという固定的な考えを改めること」が57.9%と最も高くなっています。

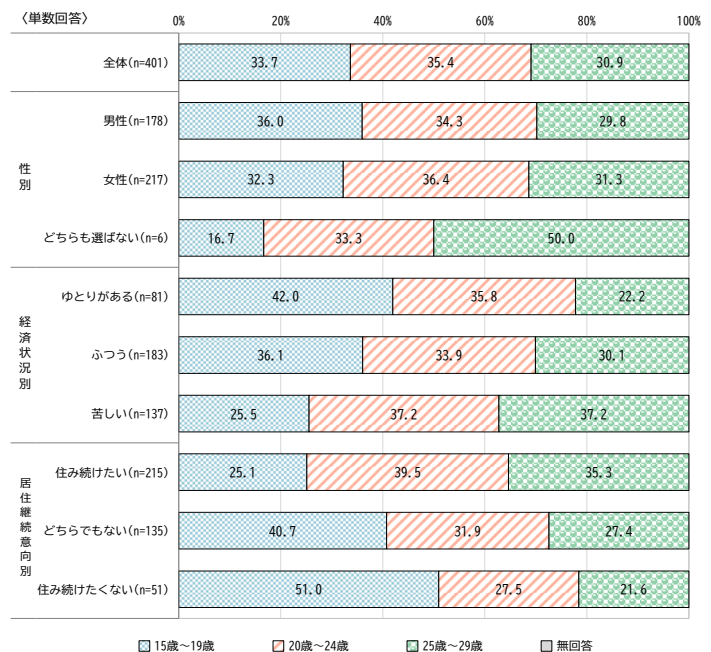
仕事と家庭を両立させるために必要なことは、「休暇の取りやすい職場の雰囲気、上司の理解」が73.1%と最も高く、次いで「配偶者の家事・育児への参加」が59.9%となっています。

男性が育児休業制度を利用することについては、「積極的に取得した方がよい」が70.1%と最も高くなっています。

- ◇子育てや教育に関する経済的負担の軽減
- ◇地域子育て支援、家庭教育支援
- ◇共働き、共育ての推進、男性の家事・子育てへの主体的な参画促進・拡大
- ◇企業等の意識啓発及び職場環境の改善のための支援

◆回答者の年齢

15～19歳が33.7%、「20歳～24歳」が35.4%、「25歳～29歳」が30.9%となっています。



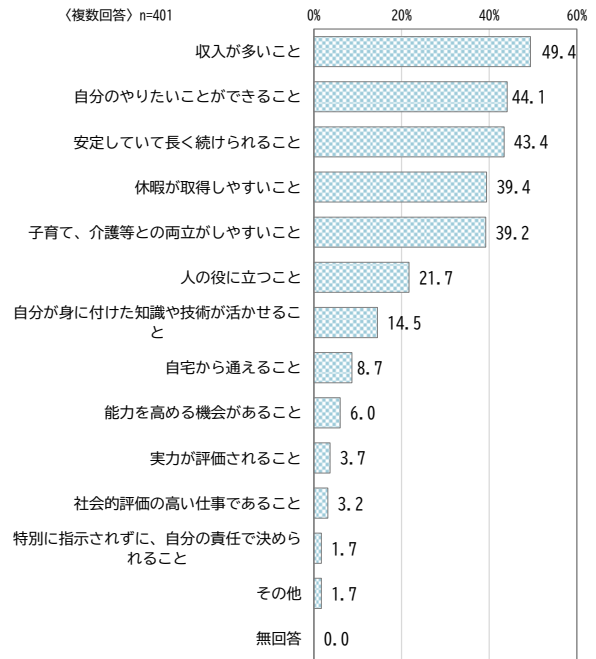
◆仕事を選ぶ際に、重要と思うこと

「収入が多いこと」が49.4%と最も高く、次いで「自分のやりたいことができること」が44.1%、「安定して長く続けられること」が43.4%となっています。

(上段：人 下段：%)

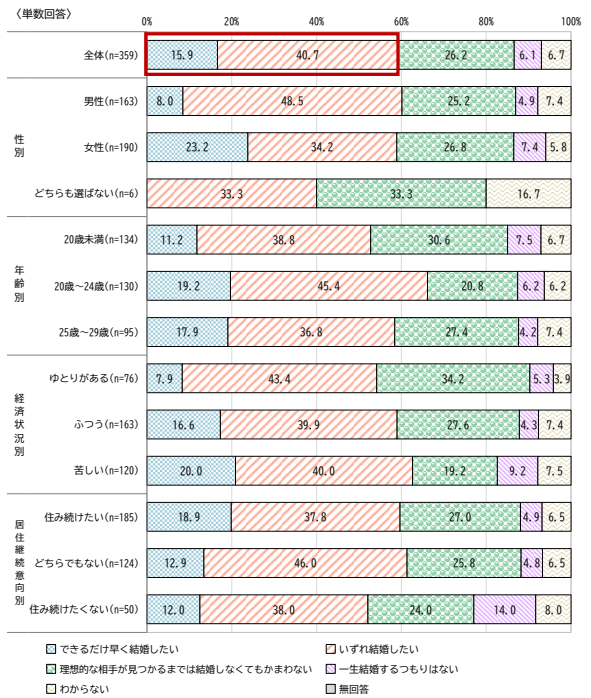
	標本数 (人)	収入が多いこと	自分のやりたいことができること	安定して長く続けられること	人の役に立つこと	社会的評価の高い仕事であること	子育て・介護等との両立がしやすいこと	休暇が取得しやすいこと	自分が身に付けた知識や技術が活かせること	自宅から通えること	実力が評価されること	能力を高める機会があること	特別に指示されずに、自分の責任で決められること	その他	無回答
全体 (単純集計)	401	49.4	44.1	43.4	21.7	14.5	8.7	6.0	3.7	3.2	1.7	1.7	0.0	0.0	
性別															
男性	178	49.4	44.1	43.4	21.7	14.5	8.7	6.0	3.7	3.2	1.7	1.7	0.0	0.0	
女性	217	49.4	44.1	43.4	21.7	14.5	8.7	6.0	3.7	3.2	1.7	1.7	0.0	0.0	
年齢別															
20歳未満	135	49.4	44.1	43.4	21.7	14.5	8.7	6.0	3.7	3.2	1.7	1.7	0.0	0.0	
20歳～24歳	142	49.4	44.1	43.4	21.7	14.5	8.7	6.0	3.7	3.2	1.7	1.7	0.0	0.0	
25歳～29歳	124	49.4	44.1	43.4	21.7	14.5	8.7	6.0	3.7	3.2	1.7	1.7	0.0	0.0	
経済状況別															
ゆとりがある	81	49.4	44.1	43.4	21.7	14.5	8.7	6.0	3.7	3.2	1.7	1.7	0.0	0.0	
ふつう	183	49.4	44.1	43.4	21.7	14.5	8.7	6.0	3.7	3.2	1.7	1.7	0.0	0.0	
苦しい	137	49.4	44.1	43.4	21.7	14.5	8.7	6.0	3.7	3.2	1.7	1.7	0.0	0.0	
居住継続意向別															
住み続けたい	215	49.4	44.1	43.4	21.7	14.5	8.7	6.0	3.7	3.2	1.7	1.7	0.0	0.0	
どちらでもない	135	49.4	44.1	43.4	21.7	14.5	8.7	6.0	3.7	3.2	1.7	1.7	0.0	0.0	
住み続けたくない	51	49.4	44.1	43.4	21.7	14.5	8.7	6.0	3.7	3.2	1.7	1.7	0.0	0.0	

(複数回答) n=401



◆自身の結婚観 (※独身の方のみ)

「できるだけ早く結婚したい」と「いずれ結婚したい」と思う割合の合計は約6割となっています。



◆現在独身でいる理由 (※独身の方のみ)

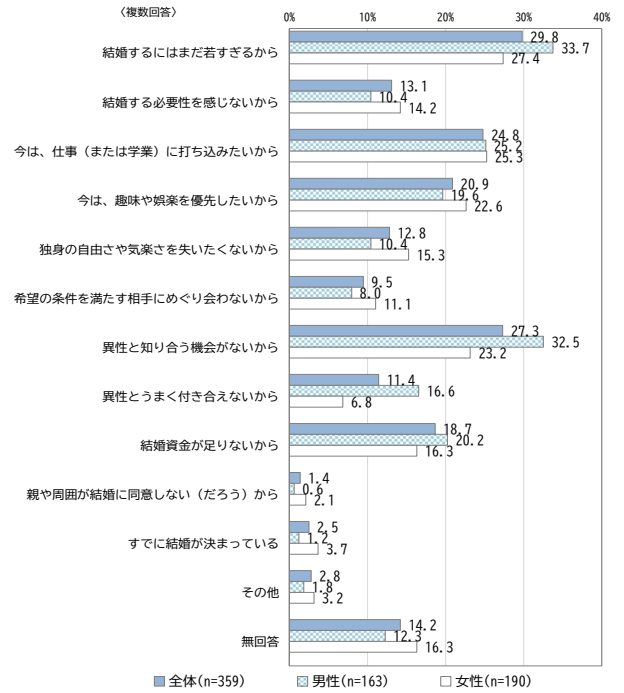
性別で理由に差がみられました。

男性 > 女性

- 「結婚するにはまだ若すぎるから」
- 「異性と知り合う機会がないから」
- 「異性がうまく付き合えないから」

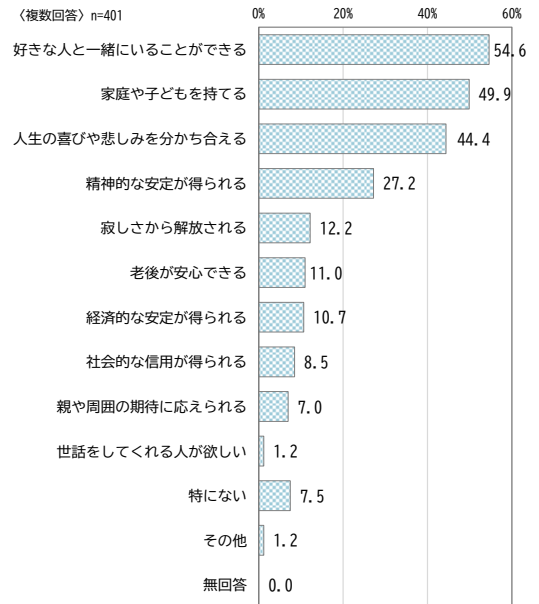
男性 < 女性

- 「結婚する必要性を感じないから」
- 「今は、趣味や娯楽を優先したいから」
- 「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」



◆結婚についての良いイメージ

「好きな人と一緒にいることができる」が54.6%と最も高く、次いで「家庭や子どもを持てる」が49.9%、「人生の喜びや悲しみを分かち合える」が44.4%となっています。



(上段：人 下段：%)

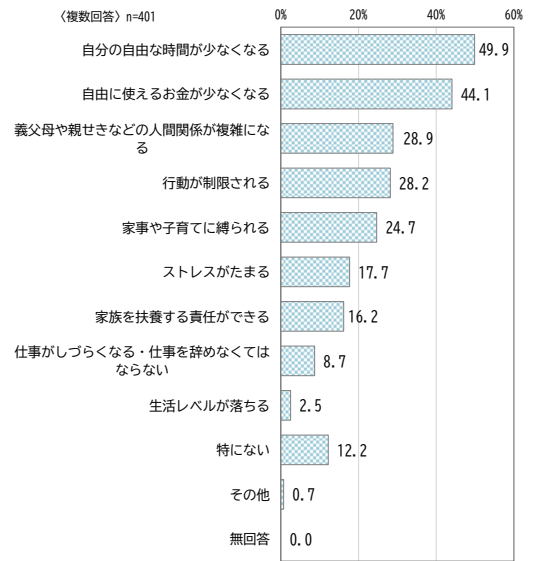
	標本数 (人)	好きな人と一緒にいること	家庭や子どもを持てる	精神的な安定が得られる	人生の喜びや悲しみを分かち合える	寂しさから解放される	社会的な信用が得られる	経済的な安定が得られる	親や周囲の期待に応えられる	老後が安心できる	世話をしてくれる人が欲しい	特にな	その他	無回答
全体 (単純集計)	401	219	200	109	178	49	34	43	28	44	5	30	5	0
性別														
男性	178	98	90	59	71	26	18	8	9	16	1	17	1	0
女性	217	118	109	48	106	22	15	33	18	27	4	13	4	0
どちらを選ばない	6	3	1	2	1	1	1	2	1	1	0	0	0	0
年齢別														
20歳未満	135	69	16	33	16	16	16	33	16	16	0	0	0	0
20歳～24歳	142	91	65	34	62	17	11	3	12	2	11	2	2	0
25歳～29歳	124	72	71	25	59	14	12	12	13	16	0	11	1	0
30歳～34歳	100	50	50	28	41	13	9	9	9	11	0	7	0	0
35歳～39歳	124	50	64	35	57	13	17	14	12	16	2	8	3	0
40歳～44歳	124	45	51	28	46	10	13	11	9	12	2	6	2	0
経済状況別														
ゆとりがある	81	51	38	19	44	13	9	10	4	11	2	3	0	0
ふつう	183	97	98	47	78	20	14	14	11	18	1	17	2	0
苦しい	137	53	53	25	41	10	7	7	6	9	0	9	1	0
希望別														
住み続けたい	215	71	64	43	58	16	11	19	13	15	2	10	2	0
どちらでもない	135	51	46	31	42	11	8	8	5	10	1	7	1	0
住み続けたくない	51	12	10	6	9	3	2	2	2	2	0	1	0	0

◆結婚についての良くないイメージ

「自分の自由な時間が少なくなる」が49.9%と最も高く、次いで「自由に使えるお金が少なくなる」が44.1%、「義父母や親せきなどの人間関係が複雑になる」が28.9%となっています。

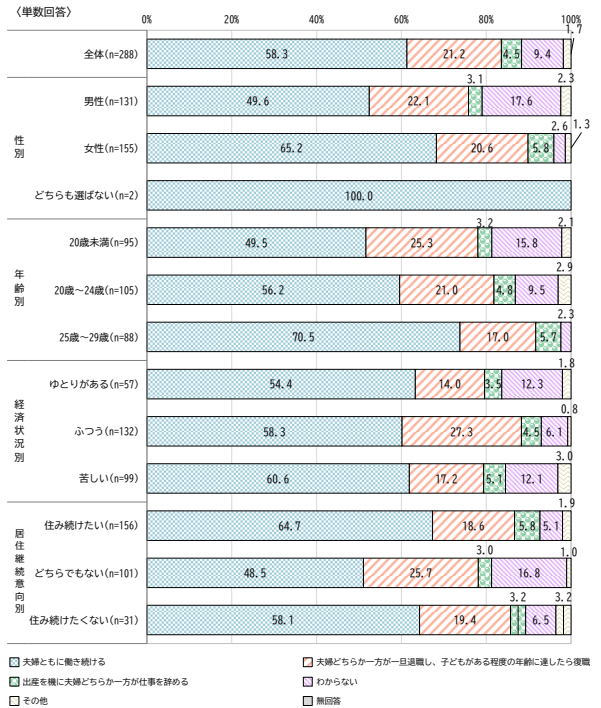
(上段：人 下段：%)

	標本数(人)	自分の自由な時間が少なくなる	自由に使えるお金が少なくなる	行動が制限される	なる	関係が複雑になる	義父母や親せきなどの人間関係が複雑になる	家事や子育てに縛られる	ストレスがたまる	生活レベルが落ちる	を仕舞う・仕事を辞めなくてはならない	家族を扶養する責任が重くなる	特にな	その他	無回答
全体(単純集計)	401	200	113	177	116	99	71	10	35	65	49	3	0	0	0
性別															
男性	178	90	61	86	31	25	19	3	5	39	30	0	0	0	0
女性	217	108	49	89	82	74	51	7	30	24	19	3	0	0	0
どちらも選ばない	6	2	3	2	3	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
年齢別															
20歳未満	135	44.48	26.78	37.88	28.98	19.38	23.78	3.78	8.18	17.88	14.18	0.78	0.08	0.08	0.08
20歳～24歳	142	73	38	65	42	37	19	3	15	20	15	1	0	0	0
25歳～29歳	124	51.48	26.88	45.88	29.68	26.18	13.48	2.18	10.68	14.18	10.68	0.78	0.08	0.08	0.08
経済状況別															
ゆとりがある	81	43	25	25	24	20	14	4	6	11	12	0	0	0	0
ふつう	183	53.18	30.98	30.98	29.68	24.78	17.38	4.98	7.48	13.68	14.88	0.08	0.08	0.08	0.08
苦しい	137	60	36	51	39	26	12	4	12	23	21	1	0	0	0
居住意識別															
住み続けたい	215	111	60	91	63	59	39	4	18	36	26	2	0	0	0
どちらでもない	135	51.68	27.98	42.38	28.38	27.48	18.18	1.98	8.48	16.78	12.18	0.98	0.08	0.08	0.08
住み続けたくない	51	47.18	31.48	49.08	29.48	19.68	27.58	5.98	7.88	9.88	11.88	0.08	0.08	0.08	0.08



◆結婚して子どもができた後の希望する働き方

「夫婦ともに働き続ける」が58.3%と最も高く、次いで「夫婦どちらか一方が一旦退職し、子どもがある程度の年齢に達したら復職」が21.2%、「わからない」が9.4%となっています。



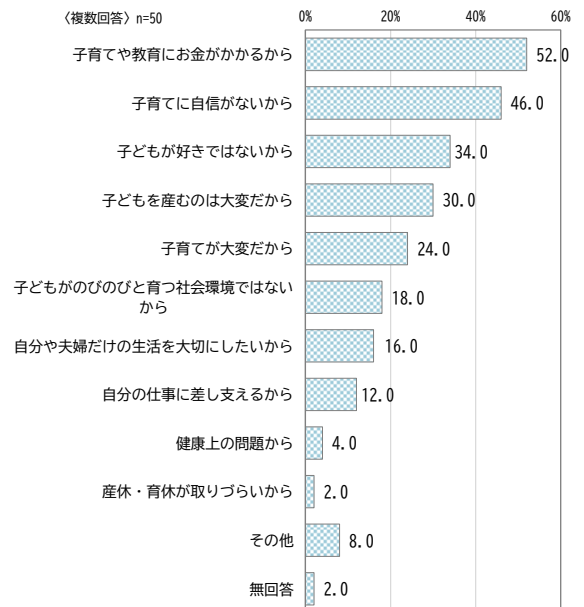
◆子どもが欲しくない理由

「子育てや教育にお金がかかるから」が52.0%と最も高く、次いで「子育てに自信がないから」が46.0%、「子どもが好きではないから」が34.0%となっています。

(上段：人 下段：%)

	標本数(人)	子どもが好きではないから	子育てが大変だから	子育てに自信がないから	自分や夫婦だけの生活を大切にしたいから	子どもを産むのは大変だから	子育てや教育にお金がかかるから	健康上の問題から	子育てや教育に自信がないから	健康環境ではないから	子どもの仕事に差し支えるから	産休・育休が取りづらいから	その他	無回答
全体(単純集計)	50	17	12	22	8	15	26	2	9	6	1	4	1	
性別														
男性	14	4	3	7	3	1	6	0	2	0	1	1	1	
女性	33	13	9	14	5	12	18	1	6	6	0	3	0	
年齢別														
20歳未満	3	0	0	2	0	2	1	1	0	0	0	0	0	
20歳～24歳	18	5	7	9	2	5	6	1	4	3	1	1	1	
25歳～29歳	19	7	3	10	4	8	9	1	5	0	0	1	0	
経済状況別														
ゆとりがある	9	3	2	5	2	2	4	0	3	2	0	0	0	
ふつう	22	8	4	11	4	7	9	1	3	2	0	3	1	
苦しい	19	6	6	7	2	6	13	1	3	2	0	0	0	
居住意識別														
住み続けたい	25	8	6	12	5	8	12	1	3	2	0	2	1	
どちらでもない	13	2	4	5	1	5	7	0	3	3	0	2	0	
住み続けたくない	12	6	2	6	2	2	7	1	3	1	1	0	0	

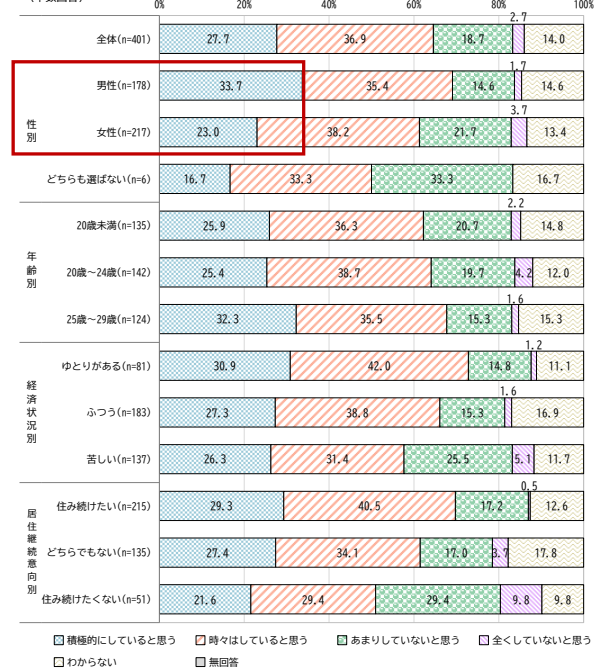
〈複数回答〉n=50



◆身近にいる男性の育児への関わり方について

「積極的にしていると思う」割合は、男性が33.7%、女性が23.0%となっています。

〈単数回答〉



◆男性が女性とともに積極的に子育てをしていくために必要なこと

性別で回答結果に差がありました。

男性 > 女性

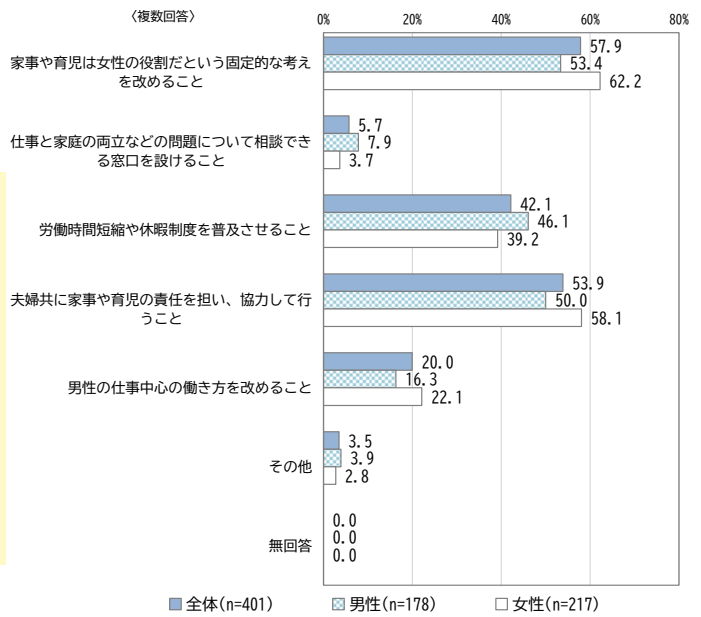
「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」

男性 < 女性

「家事や育児は女性の役割という固定的な考えを改めること」

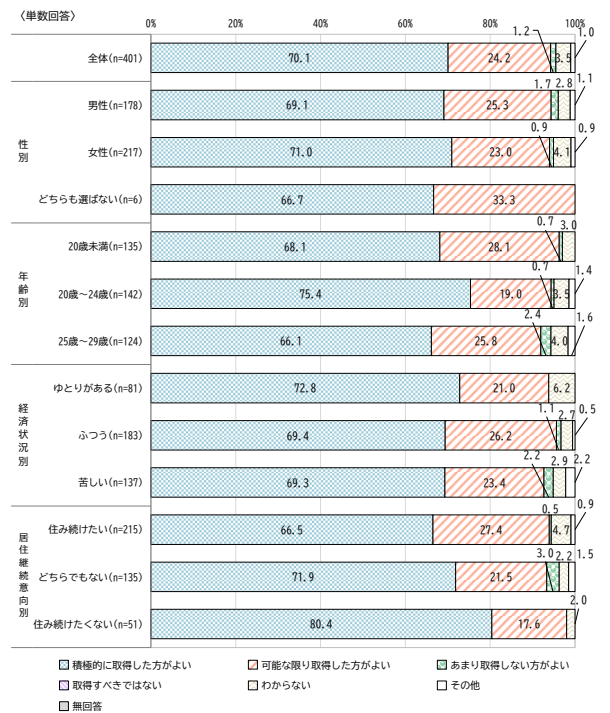
「夫婦共に家事や育児の責任を担い、協力して行うこと」

「男性の仕事中心の働き方を改めること」



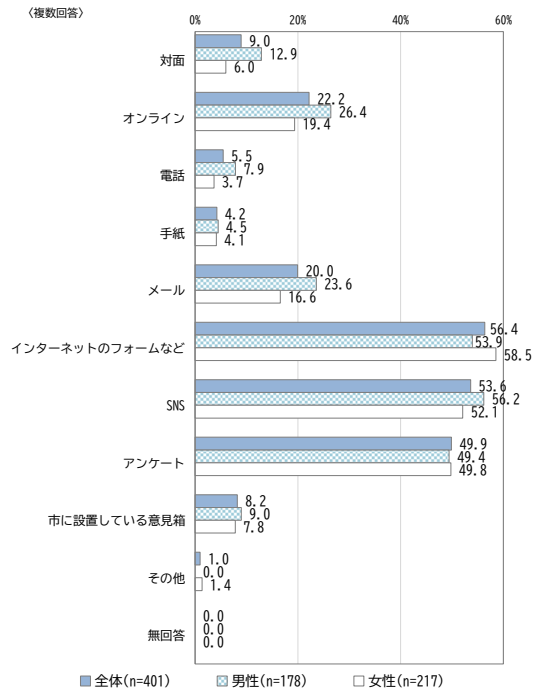
◆男性が育児休業制度を利用することについて

「積極的に取得した方がよい」が約7割となっています。



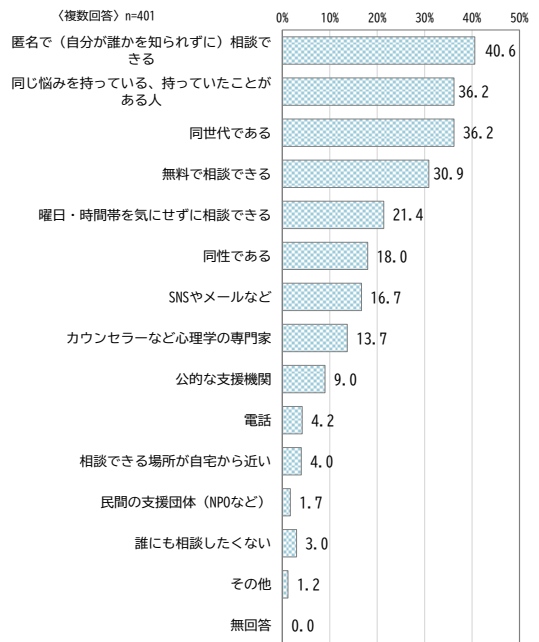
◆どのような方法や手段があれば、市に対して意見を伝えやすいか

全体では、インターネット、SNS、アンケートの割合が高くなっています。



◆社会生活や日常生活を円滑に送ることができない状態となったときに、家族や知り合い以外の相談先や相談手段等

「匿名で（自分が誰かを知られずに）相談できる」が40.6%と最も高く、次いで「同じ悩みを持っている、持っていたことがある人」、「同世代である」がともに36.2%となっています。



(上段：人 下段：%)

属性	標本数 (人)	匿名で相談できる	同じ悩みを持っている、持っていたことがある人	同世代である	無料で相談できる	曜日・時間帯を気にせずに相談できる	同性である	SNSやメールなど	電話	相談できる場所が自宅から近い	民間の支援団体 (NPOなど)	誰にも相談したくない	その他	無回答		
全体 (単純集計)	401	145	145	72	163	17	47	86	16	124	36	7	55	12	5	0
性別																
男性	178	62	89	24	64	12	33	31	3	47	15	3	18	6	2	0
女性	217	81	56	48	99	5	14	55	13	77	21	4	37	6	3	0
年齢別																
20歳未満	135	56	63	29	47	4	24	17	3	45	8	6	19	3	1	0
20歳～24歳	142	41	50	19	66	5	26	44	9	43	9	0	16	3	0	0
25歳～29歳	124	48	32	24	50	8	17	25	6	36	19	1	20	6	4	0
経済状況別																
ゆとりがある	81	37	39	21	40	1	13	22	4	28	11	1	12	1	1	0
ふつう	183	66	70	37	71	9	31	35	6	56	17	4	23	7	3	0
苦しい	137	49	45	18	59	7	25	33	6	45	10	2	23	4	1	0
居住形態別																
住み続けたい	215	76	73	42	81	11	35	51	10	67	24	3	30	4	1	0
どちらでもない	135	35	34	19	33	5	16	23	7	27	17	1	14	1	0	0
住み続けたくない	51	21	23	14	23	2	9	9	1	13	3	1	8	0	2	0

◆霧島市に住み続けたいと思うか

『住み続けたい』が約5割（男性 42.0%、女性 57.6%）となっています。

【住み続けたい、どちらかといえば住み続けたいと思う理由】

- ・生まれ育った地元だから。生活している上で不便と思うことがないため。
- ・田舎過ぎず都会でもないため住みやすいから
- ・商業施設や医療機関が大体揃っており、住みよしいと思ったから。
- ・自然、人間、環境が整っている。鹿児島、熊本、宮崎に行こうと思えばいける距離ですし、空港も近いですし、何気に便利だと思っています。等

【どちらでもないと思う理由】

- ・いずれ就職で県外に出る予定の為、どうなるか分からないから。
- ・娯楽施設が少ないが慣れているので住みやすい
- ・車が無くしては生活できないため不便であるため。夫婦ともに実家が遠く、子供を育てながらお互いが仕事も続けていくのは難しいと感じるため。
- ・霧島市は良い街だと思うが、今ひとつ魅力に欠ける部分があると感じるため。等

【住み続けたくない、どちらかといえば住み続けたくないと思う理由】

- ・やりたい仕事があるから
- ・やりたい仕事があるから
- ・何もかもが自宅から遠い、車がないので生活しにくい。
- ・国分、隼人など大きな街には金をたくさん出して、どんどん良くなって行くが、牧園や横川などの地方には、全くそういった支援を全くしないから。
- ・子供にレベルの高い教育を受けさせたいが、レベルの高い学校や塾などが少ないから。等

